

日本のポンペイ

～ 渋川市の遺跡を探る ～

No. 3

『中筋遺跡』

中筋遺跡は、今から1520年前の古墳時代に起きた、榛名山の1度目の大規模な噴火によって被災した集落遺跡です。

この遺跡は、昭和58年度に行われた道路拡幅工事に伴う発掘調査で、火山灰の直下に竪穴建物と全国でもほとんど例がなかった平地建物が発見され、その存在が知られることとなりました。

その後、昭和61年から昭和62

年にかけて行われた隣接地の発掘調査によって、火砕流によって被災した竪穴建物や平地建物、祭祀跡などが垣根や道とともに見つかり、古墳時代の集落形態の一端が明らかとなりました。この場所は、現在群馬県指定史跡に指定され、当時の集落の姿が復元整備されています。

中筋遺跡の特色は、火山噴火によって当時のムラが一瞬で埋没していることです。このことにより、被災時に建っていた建物と建っていないなかった建物跡が区別でき、どのような種類の建物が集落が構成されていたのかを把握することができました。また、当時の建物が高熱の火砕流によって燃え、その後すぐに埋没したため、その建物の木材が炭化し、良好な状態で保存されていました。このことによつて、古墳時代の建物の構造が細部まで明らかとなりました。

こうした中筋遺跡の発掘調査から得られた多くの成果は、時を同じくして調査された黒井峯遺跡での成果とともに、古墳時代の集落研究に大きな進展をもたらしました。

(市文化財保護課)



火山灰の下から姿を現した平地建物